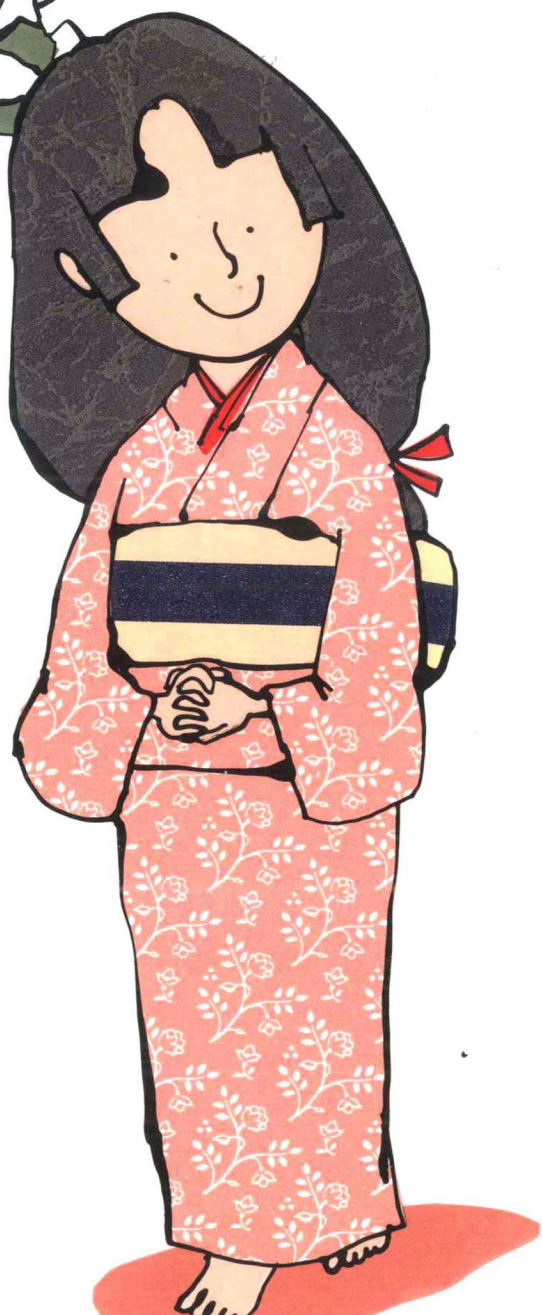


つるのおんがえし

櫻井美紀 ● 文 朝倉めぐみ ● 絵





ワンダー民話館

つるの おんがえし

二〇〇五年十一月二十日 初版第一刷発行

文 櫻井美紀 絵 朝倉めぐみ

発行人 小林公成

発行 株式会社世界文化社

東京都千代田区九段北四二二二九

〒一〇二一八一八七

電話〇三(三三二六二)五一一五(販売本部)

〇三(三三二六二)五一一一(編集部)

印刷 共同印刷株式会社

製本 株式会社大観社

禁無断転載・複写

©Miki Sakurai, Megumi Asakura

2005 Printed in Japan

ISBN4-418-05848-6

紙で手を切ることがあります。

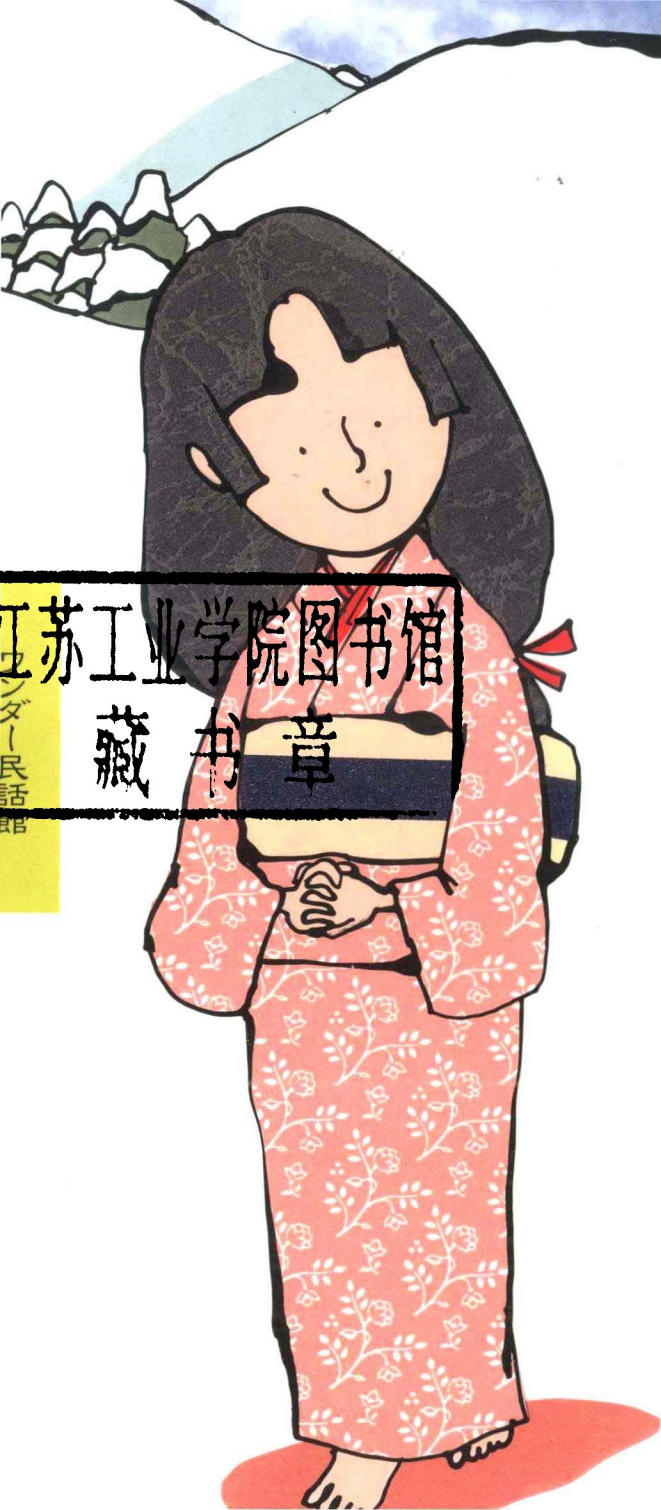
絵本の扱いには十分ご注意ください。

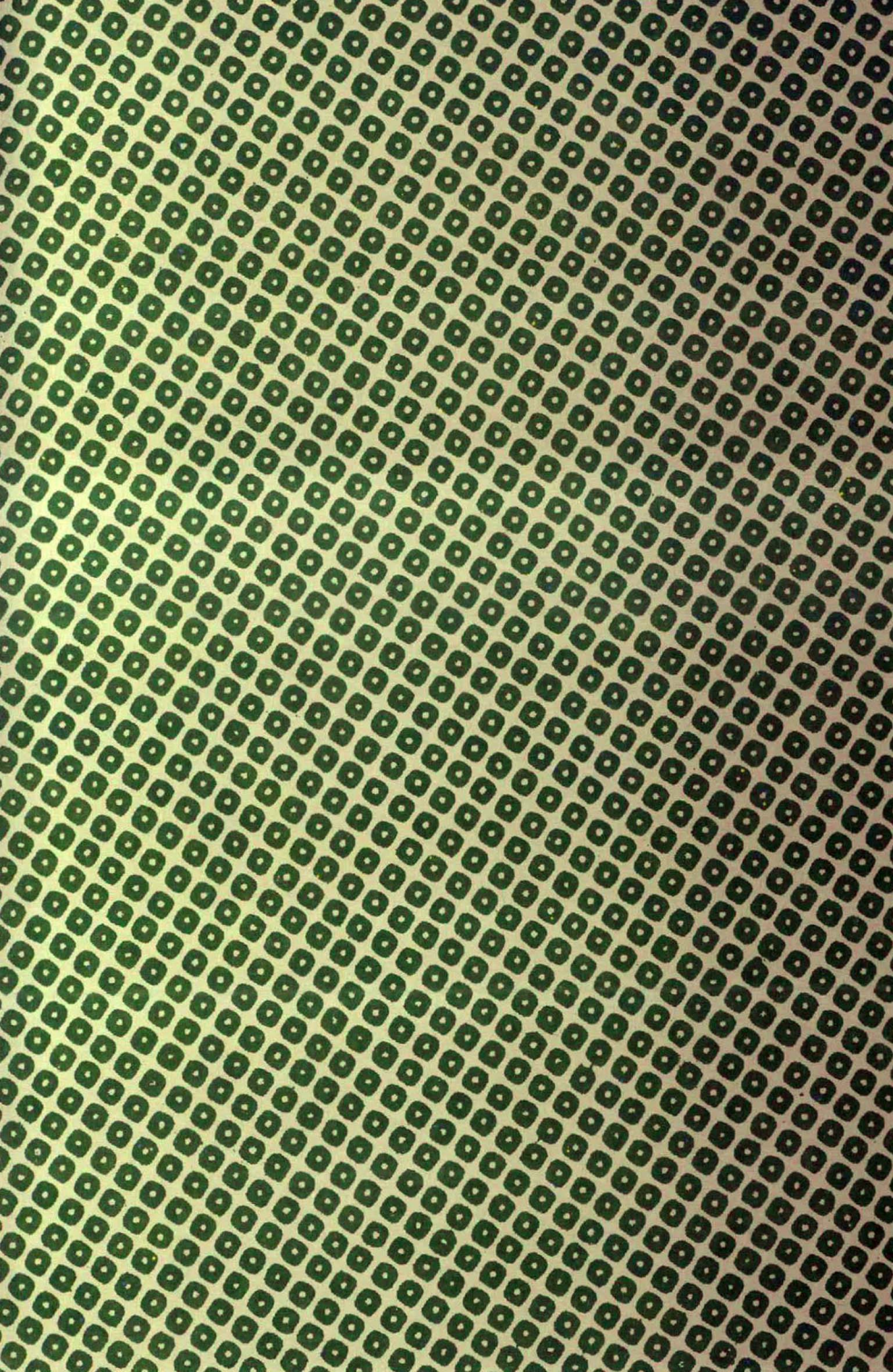
つるのおんがえし

櫻井美紀 ● 文 朝倉めぐみ ● 絵

江苏工业学院图书馆
藏书章

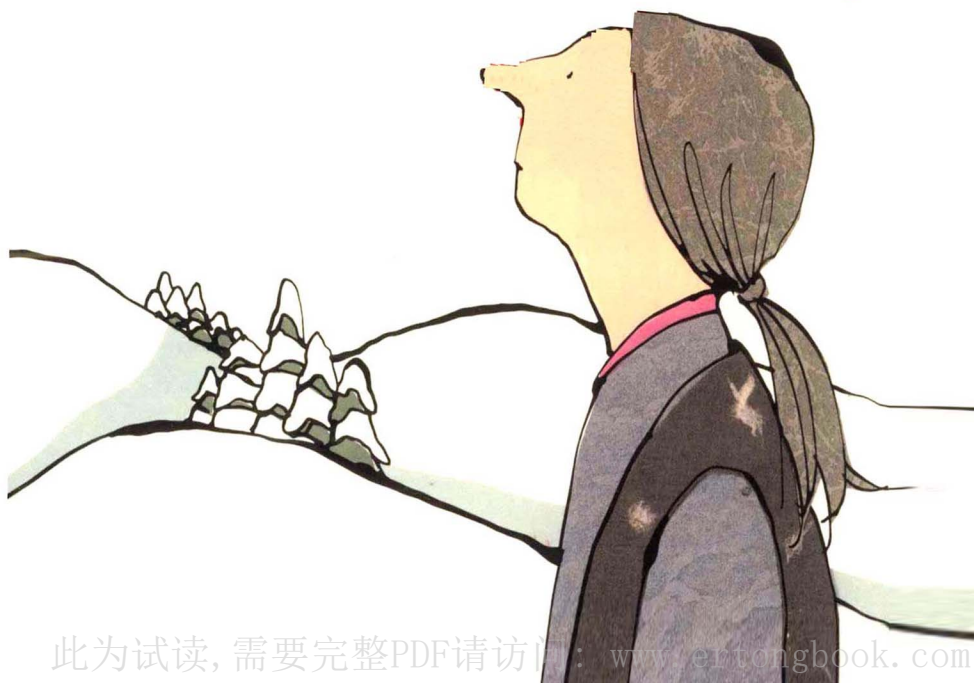
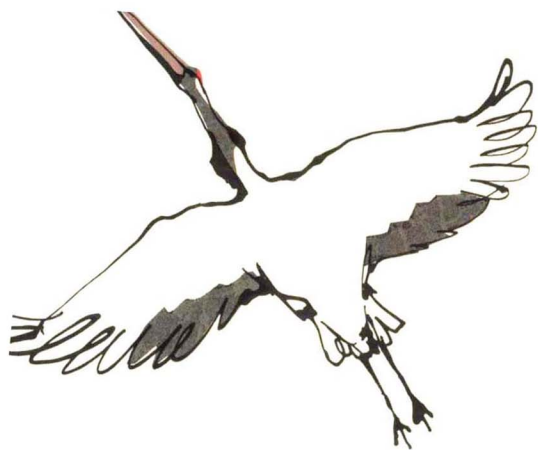
ワンダー民話館





つるのおんがえし

文 ● 櫻井美紀
絵 ● 朝倉めぐみ





む

かし、ある やまぎとに ひとりぐらしの
きこりの わかものが おりました。

ふゆの はじめの こと、わかものは やまの おくで
きを きって おりました。

かつきーん かつきーん

ひぐれに なって わかものが あと ひとうち、

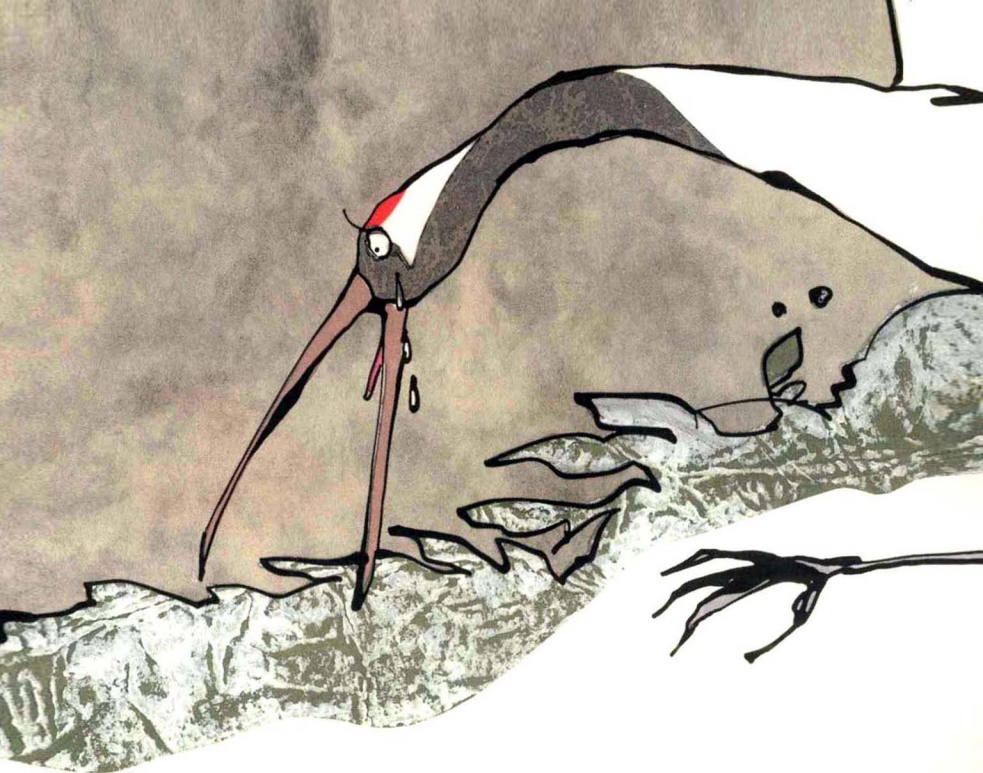
かつきーんと きを きった ときです。とおくの ほうで

ばたら ばたらと、じめんの ゆきを

うつような おとが きこえて きました。







お

とを たよりに すすんで いった
わかものは、ゆきの うえで

もがきくるしんで いる いちわの
つるを みつけました。 つるは つばきに
やを うけたまま、ここまで
にげて きたようです。

「おお、かわいそうに」

わかものは つるの つばきから
やを ぬいて やり、つるを だいて
うちに つれかえました。

 の ばん、わかものは きずぐちに くすりを
ぬって、いっしんに せわを して やりました。
つぎの ひに なると、つるは つばさを
うごかしました。

「おう、とべるように なったかや。
きを つけて うちへ かえれや。」

りようしに ねらわれぬようにな」
わかものが みおくる なか、つるは つばさを
ひろげて とんで いきました。



し んしんと ゆきの ふる ばんの ことでした。
ほど、ほど、ほど。

よる おそく、こやの とを たたく ものが
ありました。わかものが とを あけて みますと
ゆきの なかに うつくしい むすめが
ぽつつらと たって いました。

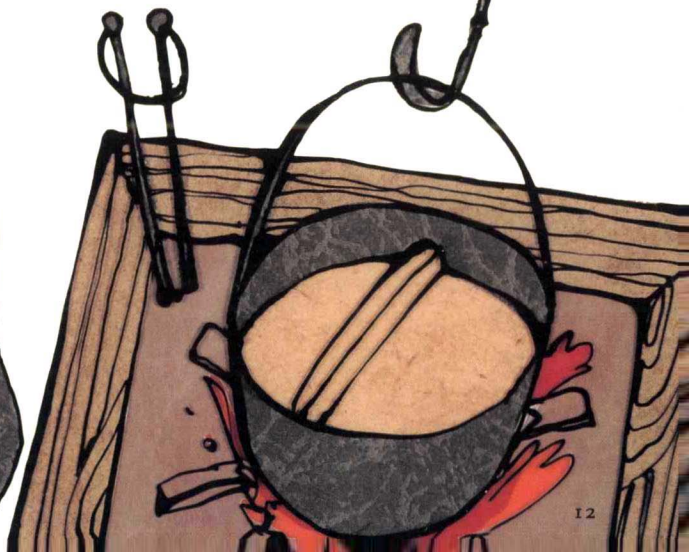
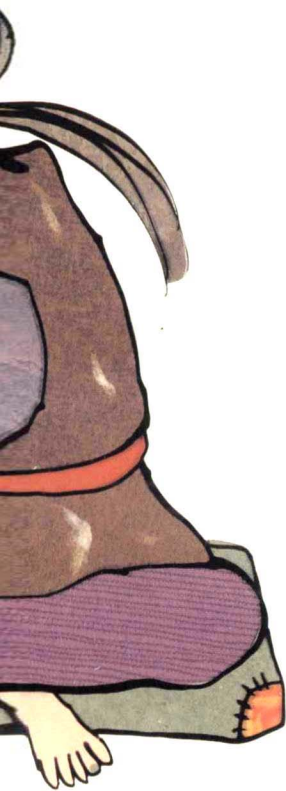
「みちに まよって こまっぺ おります。
こんや ひとばんだけ とめて ください」
かわいそうに おもい、わかものは
その むすめを とめて やりました。







つくしい むすめは、そのまま わかものの
よめさまに なりました。ふたりは しあわせに
くらしはじめましたが、ある ひの こと、
よめさまが わかものに いいました。
「おなごは はたを おる もの。どうか、
はたばを つくって くださりませ」







「うか。はたを おるのか。
きがつかんで わるかっとな」
わかものは よめさまの ために はたばを
こしらえました。よめさまは よろこんで
「では、わたしが ぬのを おりあげるまで、
けっして なかを みないで くださりませ」
というと、はたばへ はいりました。

